雑学書庫 知識の記録

海の底の黒い煙突、熱水噴出孔（Hydrothermal Vent）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/14719/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

日光の届かない数千メートルの海の底は、冷たく暗く、食べ物の乏しい砂漠のような場所だと長いあいだ考えられてきました。ところが1970年代の終わり、その暗闇の真ん中に黒い煙を噴き上げる煙突が立ち、まわりに二枚貝や真っ赤なえらを付けた管状の虫がびっしりと集まって暮らす光景が、初めて人の目の前に現れました。科学者でさえ信じがたかったこの光景を生み出した主役こそ、熱水噴出孔です。熱水噴出孔（Hydrothermal Vent）とは、地球内部の熱で熱せられた水が海底の割れ目から噴き出す場所のことです。大陸を動かすプレートが互いに離れていく海嶺の近くに主に集まっており、地球が地質学的に生きていて、表面に水が豊富にあるからこそ生まれる現象です。 本稿では、この噴出孔がどのように発見されたのか、黒い煙突がどんな仕組みで育つのか、日光なしで生きる生物は何を食べているのか、そしてまったく違う仕組みで動くロストシティまで、順に見ていきます。 海底の熱い泉が生み出すもう一つの世界 1977年、潜水艇の窓の外に現れた思いがけない生命 1977年2月、アメリカの深海潜水艇アルビン（Alvin）に乗った研究チームが、ガラパゴス海底地溝で温かい水が湧き出す割れ目と、そのまわりに群がる生物を直接観察し、試料を採取しました。この調査には、オレゴン州立大学のジャック・コーリス（Jack Corliss）をはじめ、多くの